

# NRU-east

National Railway Workers' Union

No.863 2024年  
10月11日

国鉄労働組合東日本本部  
港区新橋5-15-5 交通ビル7F  
発行責任者 伊藤 隆夫  
編集責任者 常盤 達雄

声かけて  
仲間とTUNAG  
拡大へ



第38回国労東日本本部  
国鉄労働組合東日本本部

## 第38回定期大会 代議員発言集

国労東日本本部は、8月24日に第38回定期大会を東京・新橋交通ビルにおいて開催しました。今号は、前号に続き大会特集号【その2】として経過に対する質疑、方針に対する討論、書記長集約の要旨を掲載します。

### 経過に対する 発言



本間代議員  
(東京・八王子)

職場であるJESS・武蔵増戸駅では列車は30分に1本。JR東日本では設備故障などで運休が多発している、乗務員の体調不良も増加している。

JR東日本は今後鉄道事業を本気で取り組む気があるのか。不動産事業や金融事業へのシフトで安全・安定輸送がないがしろに。「ついでに鉄道業務」と思いうくらの現状で、本気で取り組む気が無いのであれ

ば、ついでに鉄道業をするので私の駅を喫茶店にしてほしい。JR東日本はしっかり鉄道事業に取り組んでほしいと思う。

私の職場でも年休が入らない、休日出勤が増加している状況。どう採用活動をやっていくのか。一時金交渉の際に「世間の動向を伺いながら決定する」というJESS会社の発言もあつた。他の企業を出し抜くような賃金・福利厚生を打ち出していないと人が集まらない。その点を会社側に強く訴えていただきたい。各グループ会社は賃金が低かったり、定期昇給が抑えられていたりする。先が見えないような会社になっている。賃金も就業規則も改善していくように訴えてほしい。

藤井代議員(新潟)

ローカル線問題。2022年8月の豪雨で米坂線に甚大な被害が出た。その後



今泉間でバス代行が続く。村上市で昨年「米坂線早期復旧と地域活性化を考える会」が発足。今年4月に新潟県知事とJR新潟支社長へ早期復旧を要請し、署名を提出した。新潟支社は「新潟県、山形県と復旧に向けた話し合いをしている。復旧に86億円。工期5年を見込む。今後も鉄道として運営できるのか、現在は判断できない」と回答。その後、マスコミ報道ではJR東日本は4案を提示。①JR直営②上下分離方式③第三セクター④バス転換、とあり、直営は難しいと示した。考える会では、①署名と会員拡大の取り組み②復旧した只見線沿線との交流などを取り組むとしている。

新潟地本も、考える会の方々、新潟県労連、建交労、小国町の団体と連携して早期復旧に頑張っていく。ローカル線問題に取り組む団体との相互交流を東日本本部に要請する。

佐藤代議員

(東京・東京支部)

代表者選挙について。JESS新宿管区で私が立候補



補した。チラシを作成し、仲間と一緒に職場回り。新宿駅プロパー社員にチラシを渡す。翌日も同じように渡そうとしたら「勤務中なので受け取れません」と態度が変わる。ある駅では、投票の際に管理者が見ている会社側候補への投票を誘導。しかしこの社員は「佐藤さんにお世話になってるので佐藤さんに投票します」と言って投票してくれたとのこと。彼に「あまり無理するなよ」と話したが、自分の中にも不利益扱いされることへのためらいと弱さがある。

自分が受けた第三者加害について。ホームで寝ていた酔客を駅務長と二人で車いすに乗せようとしたら暴れ、腕と肩を負傷し、蹴りを入れられる。警察署で事情聴取、被害届を提出した。JESSでは被害届を出して終わり。JR本体だと訴えるところまでやってくれるが、JESSだと社員を守る体制が無い。「社バス」や「社宅」が無いことも含め、下請け会社の待遇の悪さを実感。こうした部分への改善の取り組みから国労加入へ結びつける。

### 運動方針(案)に 対する討論



小泉代議員(水戸)

駅・乗務員区が全て統括センター化。箇所体制は要員数ではなく出人数になり、出張・イベント開催で必要要員が見えない。駅も乗務員区も勤務調整に苦労。職場の声を集めて、要求に結び付けていく。

組織再編問題。水戸地本では設備・運輸の職能別に2分会を立ち上げて将来に向け柔軟に対応。TUNAGは一人ひとりに2度目の郵送で登録に努めている。設備分会は機関誌を発行。組合員の声を収集し広げる。組合員の多くが出向のため開催した出向者交流会では年休申請がしづらい環境の報告。問題の共有化を図る。過半数代表者選挙。JESS職場でプロパー社員を国労が後押し。労働条件改善に向けた対話行動を行い、安全衛生委員の選出を受ける。プロパー社員との信頼関係が作られてきている。

このほかローカル線問題について発言。



昆野代議員 (仙台)

みどりの窓口廃止問題では苦情が多く、会社は施策見直しを発表。宮城県支部は廃止反対街宣行動、チラシ配布、アンケートはがきなどの取り組みを行った。「夏季の窓口増設」も、仙台駅では若手退職での要員不足で実施できず。

7月に南仙台駅で白杖のお客様が線路に転落。駅係員は他の清掃中で気づかず。その社員一人に対し8名で事情聴取。駅体制が2名から1名に減らされなければ防げた事象だったはず。

65歳以上の雇用継続問題。3名が雇用継続拒否で裁判中。L i v i t では72歳の方や私金補填や苦情を何回も上げられるような方が採用されている。明らかに組合役員を狙った組合差別。エリア本部に、組合の最大の任務は雇用を守ること、という認識での支援を要請する。

平林代議員 (長野)

松本運輸区分会は7名で全員がエルダー出向。私の出向先・長野鉄道サービスは上回り検修、仕業検査、構内入換運転の3業務。と



今後も要求を続ける。昇進試験受験時の交通費全額支給も要求。J E S S 本社は「試験は本人の自由なので、全額の支給は行わない」と回答。受験時に実費を支払う状態の改善と、武蔵浦和だけではなく各支店ごとの会場設定も要求した。また、3等級と4等級は主任職試験、その先はリーダー職試験だが、1等級と2等級、2等級と3等級は人事考課での昇格であり、現場管理者の基準での評価のため不透明な部分がある。公平・公正な評価でない点についても訴えてきた。

松本代議員 (東京・大宮)

貨物の新人事賃金制度が導入されて大分経つが、賃金とモチベーションが上がらない状態が続いている。制度導入前より明らかに昇級試験の合格率が下がって

松浦代議員 (東京・神奈川)

J E S S 北鎌倉駅の勤務で、私以外は全員60歳以上の職場。来年退職する方が3名いて補充が不安。今年のJ E S S の夏季手当交渉に参加した。基本給十家族手当も含めての計算を要求したが実現できず。



山口代議員 (仙台)

少ない人数で組織を引き継ぐことの大変さに、若い組合員は不安を覚えている。財政や組織運営についての教育・学習も行ってほしい。若手と活動しやすい環境を作っていく必要がある。私の職場では24春闘の労働条件改善署名にほとんどの人が協力してくれた。要求の多数派から組織の多数派へ、加入してよかったです。胸を張れる組合を目指す。

坂本代議員 (東京・東京支部)

バス会社は「赤字から回復していない」と人件費削減、圧縮行路で劣悪な労働条件にされ、退職を選択する社員が後を絶たない。これ以上退職者を出さないためにも労働条件改善の闘いから組織拡大に繋がっていき

松吉代議員 (東京・東京支部)

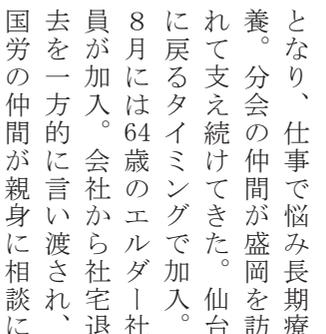
貨物会社は慢性的な人員不足が続いている。職場は若返りも図られる一方で、後任者が配属されずシニア社員も第一線で働いている。急激な世代交代で、国鉄当時から培った技術・知識などが途絶えれば重大事故に繋がる危険がある。貨物会社も離職者が多くいる。最近ではJR採用の管理者も多く退職している。魅力を感じられない会社なんだと危機感を感じる。

大貫代議員 (高崎)

再雇用先のテムズではプロパーで夜間作業月14回程度、エルダーで9回程度。やりくりが厳しく要員増を求め続け、一人増員。言い続けることが大事。P 会社で死亡・重大事故が多発。高崎でもT T S の清掃職場で、転落防止の安全帯を水道管に取り付けられていて、国労が不安全を指摘・改善。また、パワハラ改善など組合の存在意義を示してきた。組織拡大に繋がっていく。

吾妻線協議

採算性だけで切り捨てを許さず、地域・利用者や連帯した運動を展開。中央での闘いの強化を。24春闘ではエルダーは物価高に追いつかない賃上げ率。25春闘では客・貨一体となった大衆行動とストを構えて闘うべき。



松吉代議員 (東京・東京支部)

たちは手当に頼らず普通に勤務すれば生活できる賃金を要求しなくてはならない。さらに急激な円安、物価高で実質賃金が減少している。要員不足に加え、増便で休日出勤が増大している。大幅賃上げと併せて労働条件改善の闘いが重要となっている。

大貫代議員 (高崎)

再雇用先のテムズではプロパーで夜間作業月14回程度、エルダーで9回程度。やりくりが厳しく要員増を求め続け、一人増員。言い続けることが大事。P 会社で死亡・重大事故が多発。高崎でもT T S の清掃職場で、転落防止の安全帯を水道管に取り付けられていて、国労が不安全を指摘・改善。また、パワハラ改善など組合の存在意義を示してきた。組織拡大に繋がっていく。

吾妻線協議

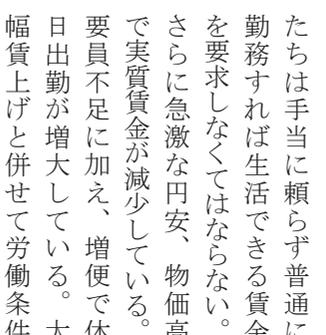
採算性だけで切り捨てを許さず、地域・利用者や連帯した運動を展開。中央での闘いの強化を。24春闘ではエルダーは物価高に追いつかない賃上げ率。25春闘では客・貨一体となった大衆行動とストを構えて闘うべき。

吾妻線協議

採算性だけで切り捨てを許さず、地域・利用者や連帯した運動を展開。中央での闘いの強化を。24春闘ではエルダーは物価高に追いつかない賃上げ率。25春闘では客・貨一体となった大衆行動とストを構えて闘うべき。

吾妻線協議

採算性だけで切り捨てを許さず、地域・利用者や連帯した運動を展開。中央での闘いの強化を。24春闘ではエルダーは物価高に追いつかない賃上げ率。25春闘では客・貨一体となった大衆行動とストを構えて闘うべき。



大貫代議員 (高崎)

再雇用先のテムズではプロパーで夜間作業月14回程度、エルダーで9回程度。やりくりが厳しく要員増を求め続け、一人増員。言い続けることが大事。P 会社で死亡・重大事故が多発。高崎でもT T S の清掃職場で、転落防止の安全帯を水道管に取り付けられていて、国労が不安全を指摘・改善。また、パワハラ改善など組合の存在意義を示してきた。組織拡大に繋がっていく。

吾妻線協議

採算性だけで切り捨てを許さず、地域・利用者や連帯した運動を展開。中央での闘いの強化を。24春闘ではエルダーは物価高に追いつかない賃上げ率。25春闘では客・貨一体となった大衆行動とストを構えて闘うべき。

吾妻線協議

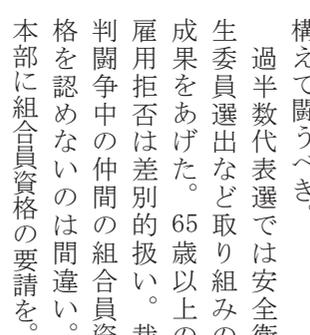
採算性だけで切り捨てを許さず、地域・利用者や連帯した運動を展開。中央での闘いの強化を。24春闘ではエルダーは物価高に追いつかない賃上げ率。25春闘では客・貨一体となった大衆行動とストを構えて闘うべき。

吾妻線協議

採算性だけで切り捨てを許さず、地域・利用者や連帯した運動を展開。中央での闘いの強化を。24春闘ではエルダーは物価高に追いつかない賃上げ率。25春闘では客・貨一体となった大衆行動とストを構えて闘うべき。

吾妻線協議

採算性だけで切り捨てを許さず、地域・利用者や連帯した運動を展開。中央での闘いの強化を。24春闘ではエルダーは物価高に追いつかない賃上げ率。25春闘では客・貨一体となった大衆行動とストを構えて闘うべき。



再雇用先のテムズではプロパーで夜間作業月14回程度、エルダーで9回程度。やりくりが厳しく要員増を求め続け、一人増員。言い続けることが大事。P 会社で死亡・重大事故が多発。高崎でもT T S の清掃職場で、転落防止の安全帯を水道管に取り付けられていて、国労が不安全を指摘・改善。また、パワハラ改善など組合の存在意義を示してきた。組織拡大に繋がっていく。



早川代議員

(東京・東京支部)

アスベスト問題で、元大井工場支部委員長の裁判は原告死亡で子息が意思を引き継ぎ、3月に勝利判決するも被告が控訴。傍聴体制の強化を求める。退職者への補償制度の確立に向け、今後の取り組みや交渉のあり方をどう考えているのか。

賃上げ機運が社会全体に強まっている、JR東日本もベアと初任給を改善しているが大企業とは程遠い。数年在籍している社員と新入社員と賃金差が少なく社員のモチベーションは下がっている。社員全体の賃上げが必要。定期昇給2号棒カットを忘れてはいけない。

25春闘では物価高騰に負けない賃上げを勝ち取るためストライキを視野に東日本本部の決意と行動提起を。東京総合車両センターの食堂はメニューを減らし、朝食は廃止、値上げを繰り返している。意見は伝えていくが改善されない。

グループ会社であるJESSにはJR並みの福利厚生はなく健康保険も違う。グループ一体を言うのであれば同じ福利厚生にすべき。

長野地本と東京地本青年部共催で平和学習会を行う。東日本全体の取り組みとなるよう協力を求める。

高瀬代議員(盛岡)

むつ市は「使用済み核燃料中間貯蔵施設」の安全協定と覚書をリサイクル燃料貯蔵株式会社と締結。六ヶ所村の再処理工場は26回目の工期延伸。廃炉が決定した高速増殖炉もんじゅは、その廃炉に50年を要し、核燃料サイクルは破綻している。ただちに核燃料サイクル計画を中止させる闘いを進める。

津軽線の鉄道復旧を求めている今別町長は鉄道復旧を断念すると表明。今後JRと自治体がNPO法人を設立し維持するとなっている。転換後の運賃・運賃体系に目を光らせ、地域住民の足を守る闘いが必要だ。

エルダー社員の労働条件が先向先の労働条件とされ、私傷病休暇などJRと違い功労金にも影響。各出向先や本体エルダーにおける処遇の違いは不合理である。

東日本管内の二地方本部化が提起され、東北が一つになることもあり、分会の統合を意思統一。機関維持については検討が必要。退職時期を迎えた組合員や役員の方についても柔軟な発想で人財活用を。組合員がいなくなる機関も想定され、その整理をどう行うか想定しなくてはならない。

定期大会方針及び代議員発言を受け、JR東日本に申1号を申し入れる

**NRU-east** National Railway Workers' Union

ダイジェスト版 2024年 No.303-① 8月30日

声かけて 仲間とTUNAG 拡大へ

**大会決定に基づき 申1号を提出する! ①**

国労東日本本部は、8月24日に第38回定期大会を開催し、2024年度『労働条件に関する協約』改訂に関する申し入れを確立し、JR東日本に対して、『労働条件に関する協約』改訂に関する申し入れを提出しました。(詳細は業務連絡報No.1782参照)

**定年退職、エルダー制度に関する要求**

- ◆60歳定年制を見直し、65歳定年制とすること。
- ◆全てのグループ会社で短日数勤務が取得できるように、本社から求めること。
- ◆出向先の年間労働時間数、休日数等はJR東日本との格差を是正すること。
- ◆基本月額賃金の引上げを図ること。
- ◆功労金について、年間単位ではなく、月単位で支給するようにすること。

現在の再雇用制度は賃金減額、原則出向のなど労働条件が引き下げられていることから、65歳定年制とエルダー出向先の労働条件改善を求めています。また、努力義務とされた70歳までの就業機会の確保など、8項目を求めています。

**勤務・休暇に関する要求**

- ◆年間労働時間を1700時間台に短縮すること。
- ◆第1種特別休日制の特別休日に8月11日(山の日)を追加すること。
- ◆新規採用者の年次有給休暇は、1年目から20日付与すること。
- ◆結婚休暇を10日間とすること。
- ◆忌引休暇については、「喪を知った日」からを改め、葬祭執行日等にあわせて分割して取得できるようにすること。

労働時間の短縮、特別休日制の見直しによる休日数の増加や家族に寄り添える「ファミリー休暇」新設を含め10項目を求めています。

**健康で安心して働き続けられる 労働条件を勝ち取ろう!**

**NRU-east** National Railway Workers' Union

ダイジェスト版 2024年 No.303-② 8月30日

声かけて 仲間とTUNAG 拡大へ

**大会決定に基づき 申1号を提出する! ②**

**賃金・手当に関する要求**

- ◆第二基本給を廃止すること。
- ◆都市手当を改めて全支社で「支社別勤務手当」を新設すること。
- ◆妊娠・出産に関する無給休暇を改めて有給休暇にすること。また、期末手当での期間率での減額をやめること。
- ◆出産祝い金を30万円に引き上げること。
- ◆寒冷地手当を引き上げること。
- ◆自動車通勤手当の支給限度については、引き上げること。
- ◆統括センターの設置により、通勤手当、新幹線フレックス定期通勤等で、社会保険料等が増加することから、負担軽減措置を設けること。

都市手当、寒冷地手当、出産祝い金の見直しや新たに「骨髄ドナー支援」の休暇・支援金を新設することを含め、16項目の改善を求めています。

**住環境に関する要求**

- ◆独身寮の35歳退寮制度と社宅の利用制限期間を廃止すること。
- ◆住宅援助金は1/2を支給すること。また、支給制限を廃止すること。
- ◆所有住宅援助金は月額2万円に引き上げること。

**その他**

- ◆アスベスト健康手帳取得に関する事業主証明の発行については、旧国鉄での業務経験年数に関わらず、最終曝露箇所であるJR東日本が速やかに発行すること。また、保障制度及び見舞金制度を新設すること。
- ◆職場に多目的休憩室の新設と新白河総合研修センター内に事業内保育所を整備すること。
- ◆グループ会社も含めてLGBTQの観点からの設備整備を行うこと。また、設備の整っていない箇所への女性社員配置は行なわないこと。

生活の基盤である住環境に関する改善や女性設備が不足していることを指摘し、改善・新設を含め、9項目を求めています。

**笑顔で生活出来るように 労働条件の改善を求めます!**

**年末一時金 満額獲得へ!**

**アンケート実施!**

**組合員以外の方の回答も歓迎します!**

JRグループ会社・協力会社の皆さんもご協力をお願いします。

**第26回皇居マラソン大会**

**11/2 主催: 東日本本部 東京地方本部 参加者募集中!**

**申し込みは各地方本部へ**

当日の参加も可能ですが、極力、各地方本部経由で申し込みをお願いします。

11:15 受付開始 (日比谷公園北端・けんこう広場)  
 12:00 開会諸注意 (皇居・桜田門・時計台付近)  
 12:30 競技開始 (2週の部・1週の部 同時スタート)  
 14:30 閉会式 (新橋駅前・ニュー新橋ビル地下会議室)

# 書記長 集約



**1点目は、安全・安定輸送確立、安心して働き続けられる職場の確立に向けて**

一昨年以降、柔軟な働き方の実現、変革2027の実現に向けた組織の再編、制度改正が提案・実施され、「融合と連携」の名のもとに、私たちの働き方は大きく変えられてきている。この間の施策の検証からは、施策に職場・社員が追いついていない実態や、安全を脅かす状況も数多く報告されている。「安全」やサービスを蔑ろにする変革には警鐘を鳴らさなければならぬ。

東日本本部として、組合員の声だけではなく、労働組合未加入者が多く存在する中で、賃金アンケート、一時金アンケートに合わせ、年休取得の状況、離職者の状況など組織の再編が引き起こしている職場実態をつかむことによって、労働

## 組織強化・拡大と共に JR世代が負担なく 引き継いでいける 組織整備を!

化を求めていく。地方ローカル線問題では本部とともに国土交通省要請を行ってきた。また、交通労働協の一員として地方、都県運輸局に対しても、公共交通の維持、改善に向けて要請を行ってきた。また、本部が10・14シンポジウムを開催することを決定している。それを起点として、全体的に取り組める状況を作っていく。

**2点目は、「秋・冬季年末」の取り組みから「2025春闘」に向けて**

条件改善に向けて申1号に集約し、会社に実態を伝え改善を求めていく。こういった取り組みを再雇用先にも広げていくことが必要であり、エルダー出向先の労働条件改善にもつながる。

安全問題では、昨年6月の内房線での感電死亡事故、1月には東北新幹線上野大宮間における架線垂下による大規模輸送障害と復旧作業中の感電事故。4月には東北新幹線工事車両油漏れ。6月には中央線飯田橋変電所ケーブル損傷での輸送障害。設備関係の退避遅延事象など数えきれないほどの注意を要する事象、事故、大規模輸送障害が発生し、労働者の命が奪われ脅かされている。

当該の地方と連携し、業務委託外注化による弊害や安全教育の在り方など、引き続き検証や改善の取り組みを進め、二度とこれらの事故が起きないように、対策の強化とともに、体制の強

**3点目は、平和と民主主義を守る取り組みについて**

東日本大震災、原発事故から13年経ってもなお、全体の復興とは程遠い現実となっている。汚染水の放出問題、原発再稼働、放射性廃棄物の処分問題など、これまで以上に問題が大きくなっている。

青年・女性の学習の場としても活用してきたフクシマ交流については、今一度核と人類は共有できないという原点に戻り、学習できる体制を作っていくようお願いする。

岸田首相は総裁選出馬を断念したが、今現在、改憲に前向きな勢力が衆議院、参議院どちらも2/3を超える状況となっている。自民党がどう変わるのかが問われているが、現在の自公政権の本質は変わらない。自民党議員の汚職問題が後を絶たず、裏金事件を曖昧にする現政権を継続させるわけにはいかない。

戦争をする国にしないために、引き続き平和と民主主義を護る取り組みを強化していくことが重要となっている。

**4点目は、組織「強化・拡大」の取り組みについて**

7月、そして8月に仙台地本での加入が報告された。2人とも再雇用となった組合員が、職場が離れてもつなぐ取り組みを継続し、本人の悩みや不安を聞き続け、不安を解消するために相談に乗り、交流し続ける中で国労加入となっている。

社友会が社員の悩みを聞いて会社に要請しているような対応を見せてはいるが、社員一人ひとりの悩みや不安を取り上げることにはありえない。そこが労働組合、国労との違いであり、働きやすい職場づくりのために実践することこそが私たちの役目であり、必要性である。

エルダー出向者、再雇用者が多くなる中で、取り組みは厳しくなっていることは事実だが、これまでもつなぐ取り組みを持っている若手社員とのつ

春闘の具体的な要求方針は、次期中央委員会で決定されるが、まずは今できることを一人ひとりの組合員が考え、来春の取り組みにつなげていく。

首都圏でも地方においても多くの取り組みが行われている。それらの取り組みに国労東日本本部としても参加し、未加入者や若手に対して職場に広めていくことが憲法改悪反対に繋がっていくものと考えている。

7月、そして8月に仙台地本での加入が報告された。2人とも再雇用となった組合員が、職場が離れてもつなぐ取り組みを継続し、本人の悩みや不安を聞き続け、不安を解消するために相談に乗り、交流し続ける中で国労加入となっている。

社友会が社員の悩みを聞いて会社に要請しているような対応を見せてはいるが、社員一人ひとりの悩みや不安を取り上げることにはありえない。そこが労働組合、国労との違いであり、働きやすい職場づくりのために実践することこそが私たちの役目であり、必要性である。

エルダー出向者、再雇用者が多くなる中で、取り組みは厳しくなっていることは事実だが、これまでもつなぐ取り組みを持っている若手社員とのつ

7月、そして8月に仙台地本での加入が報告された。2人とも再雇用となった組合員が、職場が離れてもつなぐ取り組みを継続し、本人の悩みや不安を聞き続け、不安を解消するために相談に乗り、交流し続ける中で国労加入となっている。

社友会が社員の悩みを聞いて会社に要請しているような対応を見せてはいるが、社員一人ひとりの悩みや不安を取り上げることにはありえない。そこが労働組合、国労との違いであり、働きやすい職場づくりのために実践することこそが私たちの役目であり、必要性である。

エルダー出向者、再雇用者が多くなる中で、取り組みは厳しくなっていることは事実だが、これまでもつなぐ取り組みを持っている若手社員とのつ



**がん保険にできることを、もっと。**

**No.1** アフラックがん保険 保有契約件数 令和3年度 インフラ・アフラック生命保険統計

**NEW** **「生きる」を創るがん保険 WINGS**

**1** 幅広い保障で 経済的負担をサポート

治療前の検査から治療後の外見ケアまで幅広い保障でしっかり備えることができます。

**2** 付帯サービス＜アフラックのよりそうがん相談サポート（\*）＞

（2023年7月23日第一七次提供開始予定）アフラックのよりそうがん相談サポーターがさまざまな悩みの解決をサポート

「がんかもかもしれない」と思ったときから専門知識を持つ相談員が親身にお応えします。

（\*）アフラックのよりそうがん相談サポートはHatch Healthcare株式会社またはHatch Healthcare株式会社の提携先が提供するサービスであり、アフラックの保険契約による保障内容ではありません。サービスの詳細は、アフラックオフィシャルホームページ（<https://www.afac.co.jp/keiyaku/gansoudansupport.html>）をご確認ください。

（募集代理店）（アフラックは代理店制度を採用しています）

アベニール株式会社

〒1105-0004 東京都港区新橋5-15-5 交通ビル3階 TEL.03-3437-6810 FAX.03-3437-6822

（引受保険会社）

「生きる」を創る。アフラック

東京第二法人営業部 東京都千代田区丸の内1-6-1 丸の内センタービル19階 TEL.03-6385-9829 FAX.03-3218-3885

AFソール-2022-0277-2210030 7月13日

なごりをつけていくことやアンケートの協力を要請するなどあきらめずに続けることが重要である。

一方で、組合員が各職場に点在する中で、組合員を孤立させない、横のつながりを保てる機関整備も重要な課題であることを教えてくれている。国鉄採用者が退職を迎える中で、役員を担う状況となり、国労を離れるという仲間も残念ながら出ている。今一度加入したJR世代の組合員の状況を確立し、横のつながりを作り、労働組合の役割と必要性を私たち自身も確認し、労働組合未加入者に訴えていくことが重要になっていく。また、本部が進めているTUNAGの登録を進め、情報発信の迅速化、共有化を進めていくことも国労にとって重要な取り組み。組織の在り方について、議論を進めてきたが、今大会で承認をいただき、引き続きPJ等で議論を進め、JR世代が負担なく引き継いでいけるよう組織整備を図っていききたい。

次年度もJR世代組合員全員が交流できる場を作る。本部、各地方と調整しながら、負担とならないよう気軽に集まり交流し、学習も出来るものにしていきたい。

運動の再構築を図り、出ることを考え、全ての取り組みを組織強化拡大につなげていくために、東日本本部も9地本と団結し全力をあげていくこととすることを表明し、第38回大会の集約とする。